書評

『質的データの取り扱い』

●L. リチャーズ 著

（大谷順子・大杉卓三訳，北大路書房，2009年，A5判，300頁，3,360円）

●小川 全夫
（山口県立大学大学院教授）

質的データのコンピュータ処理は，質的手法に関心をもつ人々にとっては，1つの大きな課題である。数量的データについては，すでにSPSSやSASのように標準化されたソフトウェアが確立され流布しているが，質的データの処理については標準化されたソフトウェアはまだまだ一般的であるとはいえない。質的データを扱う社会調査者のコンピュータ処理能力の向上にむけては，いくつかの方式が試みられているが，本書はイギリスで開発された「QSR NVivo」というソフトウェアの開発者であるL. リチャーズが，分かりやすく質的データ処理をめぐる指南書として書きおろしたものである。すでにコンピュータ用のソフトウェア「QSR NVivo」シリーズが商品化され，その日本語版も市販されるようになっている。また，これを用いて阪神淡路大震災被災高齢者について分析した成果も発表されている（大谷順子『事例研究の革新的方法――阪神大震災被災高齢者の五年と高齢化社会の未来像』九州大学出版会，2006。著者は翻訳者の1人でもある）。

うまい表現だなと思う言葉から著者は読者を誘導する。質的手法に関心をもつ研究者は，すでに質的データに出会っていると著者は言うのである。なるほど質的手法では，数量的手法のようにまず方法論があって，その後に数量的データを収集する手法とは異なっている。そこで，質的手法では，研究計画に際して作業手順（ログ）を明確にしておき，目的をもってデータをつくり，そのデータにコーディング処理を施したうえで記録して保管し，そのデータ記録に基づいてカテゴリーを構築し，そのカテゴリーに意味的な解釈を加えて，その結論の妥当性や信頼性を検証する一連の作業手順を踏むことになるということを分かりやすく説明している。基本的にはコンピュータのもっているファイル機能を最大限利用して質的データ処理を行おうとする手引き書である。

質的データを記録する際，正確に，コンテクスト化して，「厚い記述」に努め，役立つように，自分自身もデータの一部として取り込んで省察することが求められる。このような質的データは膨大なデータになる可能性があるが，これを記録するにはソフトウェアを使うことが有益である。テキスト文であれ，画像であれ，コンピュータ・ソフトウェアを用いれば，大量の記録を難なく処理できる。その際に，質的データの発生した場所や人の属性情報や主要部分についての見出しをつけて，フォルダに納めるという作業が重要になる。このためにソフトウェアによる質的データ記録に関連して，「プロジェクト・ノート」「設定ノート」「解釈ノート」という3つのノートを作成するよう指示されている。

コーディングされた質的データのフォルダは，コンピュータ画面では，ツリー状に配置されるが，それは絶えず組み替えることもできれば，再コード化することもできる。コンピュータ・ソフトウェアはそうした作業をいとも簡単にやってのける。こうしてツリー状体系の末端に位置するノードとしてのフォルダと，複数のノードを結びつけるカテゴリーが，全体像あるいはカタログとして一覧できるようになる。そうなれば，このカタログにしたがって質的データに基づいた理論を構築することができる。

本書は，グラウンデッド理論やディスコース分析などの方法論に基づいて質的データを扱おうとする研究者・調査者にとっては実務的によい手引き書である。今後ますます質的データを扱う社会調査は増えるだろうが，コンピュータ利用を図るうえで1つの道筋を示しているといえる。

社会と調査

第4号 Advances in Social Research

特集

外国人をめぐる調査

日系ブラジル人の定住化と調査の課題……小内　透

都市地域社会とアジア系移住者調査……田嶋淳子

これは何のための調査なのか……松宮　朝

在日フィリピン人介護者調査……高畑　幸

外国人の子どもの就学状況に関する研究……小島祥美

国籍取得をめぐる
在日コリアンへの調査研究……佐々木てる

編集・発行＝一般社団法人 社会調査協会

発売＝有斐閣